

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	関西国際大学
設置者名	学校法人濱名山手学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部等 共通 科目	専門 科目	合計		
保健医療学部	看護学科	夜・通信	18		149	167	13	
経営学部	経営学科	夜・通信			117	135	13	
教育学部	教育福祉学科	夜・通信			66	84	13	
国際コミュニケーション学部	グローバルコミュニケーション学科（英語コミュニケーション学科）	夜・通信			20	38	13	
	観光学科	夜・通信			28	46	13	
心理学部（人間科学部）	心理学科（人間心理学科）	夜・通信			48	66	13	
社会学部	社会学科	夜・通信		6	24	13		
現代社会学部	総合社会学科	夜・通信		11	58	69	13	
	観光学科	夜・通信			36	47	13	
(備考)								
人間科学部人間心理学科は、2021 年度より心理学部心理学科へ名称変更								
2021 年 4 月現代社会学部の改組により社会学部社会学科、国際コミュニケーション学部観光学科を設置								
2023 年度より国際コミュニケーション学部英語コミュニケーション学科は国際コミュニケーション学部グローバルコミュニケーション学科へ名称変更								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページにて公開 https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_information.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	該当なし
(困難である理由)	なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	関西国際大学
設置者名	学校法人濱名山手学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kuins.ac.jp/about/kuis_information/_8256.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	元神戸新聞 姫路支社長	2020.4.2～ 2024.3.31	教育(社会人プロジ ェクト)
非常勤	株式会社インターアク ト・ジャパン代表取締役	2020.4.2～ 2024.3.31	グローバル化推進
非常勤	株式会社内田洋行代表取 締役	2022.4.1～ 2024.3.31	社会・地域連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	関西国際大学
設置者名	学校法人濱名山手学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画書の作成過程 シラバスは、学生が科目の内容を理解しやすく、活用しやすいシラバスとすることを念頭に作成するように各教員へ依頼している。システム上において自動的に、当該授業の科目ナンバリングコードや開講学期等が自動的に記載される。教員に対しては、下記項目についての記載を求めている。 ● 先行して履修すべき科目、並行して履修すべき科目、今後履修すべき科目 ● 学生からの質問に答えるための連絡先（メールアドレスや研究室の番号など） ● 授業形態は、「講義科目」「演習科目」「実験科目」「実習科目」「実技科目」など ● 履修制限がある場合の選抜の方法等 ● 授業の目的と概要。記載については、当該授業の学問分野における位置づけや、学位プログラムの中で設定されている DP を踏まえ、主語を学生にして記載 ● 学習目標と DP との関連 下記のポイントについて記載 ① 学科の DP（ディプロマポリシー）との関連性について記載する。 ② 学習目標は客観的に評価することが可能な内容とする。 ③ 1つの文章に1つの目標を示す。（複文とないように） ④ 評価の条件や基準を具体的に明示する。 ● 使用する教科書や参考書、教材、授業で扱う内容に関連する文献、参考となる URL や論文名 ● 成績評価 具体的に、学習目標が達成されたかどうかをどのように判断するのかの視点から、測定の方法、基準の配分を具体的に記載するように求めている。 ● オフィスアワーの曜日時限についての記載。 授業計画書の作成・公表時期 シラバスの作成は、次年度の授業担当が確定する授業開講前年度の1月下旬から、次年度授業担当の専任教員及び非常勤講師に作成を依頼する。その後、各学部学科、高等教育研究開発センター等において、チェックを行い、必要であれば、2月中旬に行われる全学FD等において、シラバスの課題や問題点等について取り上げ、修正等の依頼を行っている。 公表は、3月末からの履修登録にあわせて、WEB上にて公開している。	
授業計画書の公表方法	大学ホームページにより公開 https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/syllabus.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況は、教育課程編成の方針(CP)の評価に掲げる方法により行い、具体的な評価方法は以下の通りである。

1. KUISs 学修ベンチマーク

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(1) 自律性、(2) 社会的貢献性、(3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキルの評価に使用する。これら5つの到達目標を測るために、12項目の測定尺度を設定したKUISs学修ベンチマークルーブリック(評価基準表)を作成している。学生は半年に一度、このルーブリックにもとづいて、どの能力項目がどのレベルにあるのか自己評価を行い、学生を担当するアドバイザーが学生の自己評価結果の確認を行う。

2. 卒業研究の成果

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価する。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用する。

3. 到達確認試験

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6)に関連し、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2年終了時に到達確認試験を実施して評価を行う。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4年の卒業研究を履修するための要件としている。

4. 総括テスト及びレポートなどによる各科目の成績評価

各科目では、シラバスに記載している方法で成績評価を行う。評価は、テストによるもののほか、レポートやプレゼンテーションのルーブリック評価などにより、科目の内容や方法に合わせて多面的に行っている。

具体的には、下記の記載をシラバスに求めている。

① 測定の方法(例:中間テスト・期末テスト・レポート・エッセイ・eポートフォリオ等)

② 基準の配分(例:テスト60%、レポート20%、毎回のコメント10%、eポートフォリオ10%)

なお、それぞれの測定が、どの時期に行われるのか(例:中間テスト(日時)、小レポート(毎回))を明記することで、学生は自分自身でスケジュール等を調整し、準備することができるため、必ず提示するように依頼

・成績評価は、授業途中の評価(中間試験等)だけでなく、総括試験、本試験など総括的な評価を必ず行うことと、総括試験、本試験の配点割合はあらかじめ示し、総括試験、本試験だけで合否が決まるような成績評価にならないように求めている。

・出席点は評価に含めてはいけない(授業への出席は前提)。

・情意的領域の観点の評価の対象とする場合は、それが学習目標に明記されていることと、十分妥当な評価基準を受講生に示しておくこと。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

本学におけるGPAの算出方法は下記のとおりである。なお、GPAは学業成績優秀者の表彰や学内における各種奨学生の選考の際に資料としている。

◆成績評価と科目GP

各登録科目の成績評価を「4」、「3」、「2」、「1」、「0」に換算する。

成績評価 (100点満点)	科目GP (グレード・ポイント)
90点、100点	4
80点	3
70点	2
60点	1
60点未満	0

◆ GPAの計算方法

科目GPに各授業科目単位数を乗じ、その総和を登録科目総単位数で割る計算でGPAの数値を算出

$$GPA (グレード・ポイント・アベレージ) = \frac{(A \text{ 科目 } GP \times A \text{ 科目単位数}) + (B \text{ 科目 } GP \times B \text{ 科目単位数}) + (C \text{ 科目 } GP \times C \text{ 科目単位数}) + \dots}{\text{登録科目総単位数}}$$

◆ GPAと学修指導

GPAによる学修指導は以下の通りです。

- ① 前学期（夏、冬学期は含まない）GPAによって、履修登録の上限単位数が増減する。
- ② 年間GPA（春学期または秋学期を起点とし、夏学期または冬学期を含む4学期）が1.00未満の者には、学部長が嚴重注意を行う。
- ③ 連続する2学期（夏学期または冬学期を除く）において、各学期のGPAが共に1.00未満の者には、学部長が保護者同席の上で、嚴重注意を行う。
- ④ 入学以来の累積GPAが1.50以上で、かつ既修得単位数が80単位以上の者のうち、休学期間及び特別履修期間を除く在学期間が3年以上に達している場合で、原則として2年次末に実施される到達確認試験に合格済みの学生は、履修登録の際に、「卒業研究」を登録することができる。ただし、累積GPAが1.50未満の場合でも、到達確認試験に合格済みであり、「卒業研究」を登録しようとする直前1年間の年間GPAが1.60以上で、年間34単位以上を修得し、学修態度に改善があった者には、「卒業研究」の登録を認めることがある。
- ⑤ 1年次秋学期以降で、連続する春・夏・秋・冬・春・夏学期または秋・冬・春・夏・秋・冬学期において当該期間の累積GPAが1.00未満の者には、学部長が退学を勧告する。但し、本人およびアドバイザーの意見を聞いた上で、成業の可能性があると判断されれば、この限りではない。また、学修の継続を希望する者は、特別履修期間として在学することができる。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

大学ホームページにより公開

[https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_informati
on.html](https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_informati
on.html)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本学においては、『他者を尊敬しつつ、主体的・能動的に自らの人生を切り拓く』ことができる人間を世界に送り出すこと」をめざし、具体的には、「Communication (対話、伝達)、Consideration (熟慮、考察、思いやり) & Commitment (参画、貢献) を価値基準とし、この“3つのC”を実行できる人間の育成を「学院教育ミッション」として、本学の各学位プログラムの課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、学則第1条に定めるグローバルな視野に立った教養と専門的知識・技術を修得し、安全な社会やコミュニティ作りに向けて総合的に活用できる人材を育成することを目的としている。

その実現のために、同第1条の2に定める下記の力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成することを教育目標としている。

(1) 自律的で主体的な態度 (自律性)

自分の目標をもち、その実現のために、自らを律しつつ意欲的に行動することができる。

(2) 社会に能動的に貢献する姿勢 (社会的貢献性)

集団や社会のために他者とともに行動し、貢献することができる。

(3) 多様な文化や背景を理解し受け入れる能力 (多様性理解)

世界に住まう人々の文化や社会が多様であることに理解を深め、世界市民として行動できる。

(4) 問題発見・解決力

根拠にもとづいて、問題を発見したり解決のアイデアを構想したりする思考力や判断力を身につけ、問題を解決することができる。

(5) コミュニケーションスキル

国内外を問わず、社会生活の様々な場面で、他者の思いや考えを理解するとともに、自分の考えを的確に表現し、意見を交わすことができる。

(6) 専門的知識・技能の活用力

自ら学ぶ学位プログラムの基礎となる専門的知識・技能を修得し、実際に想定した場面で活用することができる。

上記、卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価する。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用する。

なお、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2年終了時に到達確認試験を実施して評価を行う。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4年の卒業研究を履修するための要件としている。

<現代社会学部のディプロマポリシー>

現代社会学部では、所定の期間在学し、学部の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、所定の単位を修得し、以下の学部共通の能力及び学科固有の能力を備えた学生に卒業を認定するとともに学士号の学位を授与する。

<「現代社会学部」 共通能力>

・健やかで調和のとれた人格と、しなやかなで豊かな知性を自ら形成できる人間性。 ・主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力。 ・多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力。 ＜「現代社会学部 総合社会学科」 の能力＞ ・修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力。 ・社会や文化について科学的に理解する力。 ・新たな文化創造のための豊かな感性を涵養し、社会発展に貢献する力。 ＜「現代社会学部 観光学科」 の能力＞ ・歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 ・グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ。 ・経験から得た自信と常に成長しようとする意欲、ホスピタリティを備え、自らを社会に役立てようとする。 ・異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える。 シラバスにおいて、各科目が上記DPのいずれに対応するか明示し、その単位を修得することにより、DPに定めた目標を達成していくものと判断している。 総合社会学科においては、基礎科目は42単位以上（必修23単位、選択必修6単位以上、選択13単位以上）、専門科目については74単位以上（必修18単位、選択必修4単位以上、選択52単位以上）を履修修得した上で、卒業要件単位である126単位を満たすためには、残りの10単位分の単位を基礎科目・専門科目の中から修得しなければならない。 観光学科においては、基礎科目は42単位以上（必修13単位、選択必修12単位以上、選択17単位以上）、専門科目については64単位以上（必修30単位、選択34単位以上）を履修修得した上で、卒業要件単位である126単位を満たすためには、残りの20単位分の単位を基礎科目・専門科目の中から修得しなければならない。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	（大学ホームページにて公開 https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_information.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	関西国際大学
設置者名	学校法人濱名山手学院

財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	大学ホームページにて公開 https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/finance.html
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告(書)	同上

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 学校法人濱名山手学院新第1次中期計画 対象年度: 2022年度から2024年度まで)
公表方法: https://www.kuins.ac.jp/about/assets/d0b5b3225a02bbd48596cf7b7ac178965ad2f4fa.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/hyoka.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/hyoka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 国際コミュニケーション学部 グローバルコミュニケーション学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html
グローバル社会で活躍できる人材を養成することをめざし、自ら積極的に行動し、体験を通して社会との関わりの中で考え、行動することができる人間を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/english/3policy.html
1. 学位授与の方針【DP】 グローバルコミュニケーション学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、国際コミュニケーションの場面で活用できる英語運用能力、国際地域文化あるいはビジネスに関する知識、国際的な視野、および、以下の 6 つの力・資質を総合的に活用しながらグローバルに活躍できる人物に学士（英語学）の学位を授与します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自ら主体的に計画を立てて実行し、ふりかえりを行いながら取り組むことができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会や集団のために貢献し、より多くの人が他者と協働し参加するような貢献ができる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは考え方や価値観の異なる人たちを尊重し、地域、人種、宗教など様々な多様性を受け容れながら行動できる。 (4) 問題発見・解決力 様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。 (5) コミュニケーションスキル 日本語・英語双方の言語で必要なコミュニケーションをとることができる。特に、英語力については 2 年次終了までに TOEIC600 点以上、CEFR*-B2 レベル程度を達成する。 *ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）を指す。語学のコミュニケーション能力のレベルを示す国際標準規格。 (6) 専門的知識・技能の活用力 アジア太平洋地域を中心とした国際社会に関する情報をリアルタイムで把握するとともに、その情報を自らの立場で専門的知識を用いて活用することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/english/3policy.html

2. 教育課程編成の方針【CP】

1) 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・DX化が進化する社会で必要となるデータサイエンスに関する知識とスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、コミュニケーションツールとしての英語力を強化しながら、アジア太平洋地域を中心に、国際的な視野で物事を理解し、行動するための知識や方法を学びます。

- ・1～2 年次では、英語運用能力の育成を行い、4 技能の基礎を固めます。1 年終了時 TOEIC450 点取得（海外留学条件）、2 年終了時 TOEIC600 点取得を目指して、段階的に英語力を強化します。
- ・1 年終了時には、学生の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。本学科では、次の 2 つの専攻を設定します。

1) 国際地域文化専攻

様々な文化的・社会的背景を理解しながら国際社会で活躍するための情報や知識について学びます。

2) ビジネスコミュニケーション専攻

国際的なビジネス現場で実践的に活躍するための知識や教養について学びます。

- ・2 年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、その専攻の教育目的に沿った科目を体系的に学びます。
- ・2 年次秋学期には、2 専攻に共通して、1 学期間以上海外の協定校に留学する「課題研究（グローバルリサーチ）」を履修します。
- ・3 年次以降はそれまでに学んだ専門的な内容をさらに発展的に学ぶための科目を履修します。
- ・希望する場合は中高教職免許、また日本語教員養成の修了証取得のための科目を履修します。

2) 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 英語運用能力をモニタリングします

1 年終了時 TOEIC450 点以上、2 年終了時 TOEIC600 点以上（CEFR-B2 レベル）の達成を目標に、自分のレベルに応じた科目を履修していきます。

(3) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

課題研究（グローバルリサーチ）、サービスマーケティング、インターンシップといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(4) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答えは可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(5) ICT システムを利用した教育方法を取入れます

e ラーニングシステムおよび e ポートフォリオシステムを利用します。

e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。

e ポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標設定に利用します。

(6) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画を立てて学修を進めます

4 年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4 年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

3) 教育評価

それぞれの科目における評価、および、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる 6 つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。学期の終盤には総合的全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせで多面的・総合的にを行います。

(2) KUISs 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します

半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUISs 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。

(3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します

2 年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

(4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します

4 年間の学修成果は、国際コミュニケーションに関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/english/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

求める学生像

本学科は、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

高等学校での修得が望ましい水準

[知識・技能]

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2) 高等学校までの履修内容の「国語総合（現代文）」を通じて、日本語運用能力（聞く・話す・読む・書くことについての基礎力、漢字検定３級程度以上）を身につけている。
- (3) 基本的な英語力（英検準２級程度）を身につけている。具体的には、英語で日常の簡単な挨拶や自分の身の回りのことについて表現したり、まとまった英文を読んで理解したり、書いたりできる。
- (4) 基礎的数学力（数学Ⅰ・数学Ａ程度）を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

- (5) ビジネス・国際関係・文化・教育等に関連した社会の様々な問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

- (6) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。
- (7) 国際社会においてビジネス・国際関係・文化・教育等に関連した分野で活躍したいという意欲がある。
- (8) 海外留学に積極的に取り組む意欲がある。

[入学前教育]

- (9) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 国際コミュニケーション学部 観光学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html>

英語の運用能力およびコミュニケーション能力と観光産業に必要な知識と実践的スキルを身につけ、多様化する観光ニーズを科学的に分析・調査し、観光事業における新たなサービスを企画できる人材を養成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/tourism/3policy.html>

1. 学位授与の方針【DP】

国際コミュニケーション学部観光学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、学校法人濱名山手学院の教育ミッションにもとづき、グローバルな視野にたった教養と観光学の専門的知識・技能及び以下の 6 つの力・資質を総合的に活用して、観光産業において活躍できる人物に学士（観光学）の学位を授与します。

- (1) 自律的で主体的な態度（自律性）

自ら主体的に計画を立てて実行し、ふりかえりを行いながら取り組むことができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） より多くの人に他者との協働を促し、社会や集団の目的達成に貢献できる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 自分とは異なる考え方や価値観を尊重し、多様な社会的・文化的背景を受け容れながら行動できる。 (4) 問題発見・解決力 様々な社会的・文化的な現象について科学的な視点から理解し、根拠にもとづいた解決のための提案ができる。 (5) コミュニケーションスキル 日本語・英語双方の言語で必要なコミュニケーションをとることができる。特に、英語力については卒業までに TOEIC600 点以上、CEFR*-B2 レベル程度を達成する。 *ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）を指す。語学のコミュニケーション能力のレベルを示す国際標準規格。 (6) 専門的知識・技能の活用力 マーケティングの知識・手法に基づき、観光産業で求められる知識・技能と活用して、既存の課題の解決と新たな企画・提案ができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/tourism/3policy.html>）

2. 教育課程編成の方針【CP】

本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識・技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1) 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、KUISs ベーシックス、コモンベーシックス、リベラルアーツの各科目群において、以下の内容について学びます。

- ① KUISs ベーシックス科目群では、初年次教育を通して大学への適応をはかり、批判的な思考を養いつつ、情報の分析やレポートの書き方といった大学における基本的な学習スキルと、ディスカッションの進め方やリーダーシップの在り方など社会に出てからのコミュニケーションスキルを修得します。さらに、すべての学生が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行います。さらにそれらの学びを活かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。
- ② コモンベーシックス科目群では、外国語科目とその他の科目を通じて、基礎的なコミュニケーションスキルを獲得します。また加速度的に進化する情報化社会へ対応するために、基礎的な ICT（情報通信技術）スキルを身につけます。
- ③ リベラルアーツ科目群では、「人間学」を中心に「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の 3 領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のため

の基本的視点・考え方を学びます。

- ④ DX化が進展する社会で必要となるデータサイエンスに関する知識とスキルを身につけます。
- ⑤ 経験学習として、サービスマーケティングまたはグローバルスタディの履修を選択必修とし、国内外で社会貢献活動に参加します。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、アジア太平洋地域を中心に、国際的な視野で物事を理解し行動するために、コミュニケーションツールとしての英語力を強化しながら、観光ビジネスに関する専門的な知識・技術を学びます。そのために、観光学および経営学を主とする「基礎科目群」と3つの専攻（観光ビジネス専攻、ホテル・ブライダル専攻、エアライン専攻）に関する「基幹科目群」、およびさらに発展的な学修につなげる「展開科目群」を編成します。

- ・語学教育においては、1～2年次では、英語運用能力の育成を行い、4技能の基礎を固めます。習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テスト等を用いて進捗度を確認し、1年終了時 TOEIC450点取得（海外留学条件）、卒業までに TOEIC600点取得を目指して、段階的に英語力を強化します。また選択語学として中国語を重点的に配置し、2年次より科目を基礎から段階的に設定し、習熟度に合わせた履修による語学力の育成をはかります。

- ・1年終了時には、学生の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。本学科では、次の3つの専攻を設定します。

1) 観光ビジネス専攻

観光を経営学的視点から捉え、既存の課題を解決し、新たな観光事業を企画立案する方法を学びます。

2) ホテル・ブライダル専攻

ホテル・ブライダルビジネスの専門的な知識・技能を身につけるとともに、マーケティングの視点と手法を活かした現場のマネジメントについて学びます。

3) エアライン専攻

エアラインビジネスの専門的な知識・技能を身につけるとともに、マーケティングの視点と手法を活かした現場のマネジメントについて学びます。

- ・2年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、その専攻の教育目的に沿った科目を体系的に学びます。
- ・3年次以降はそれまでに学んだ専門的な内容をさらに発展的に学ぶための科目を履修します。

(3) 総合演習科目

総合演習科目は、2年次以降に少人数の専門ゼミナールに分かれて、教室内での講義型学習と教室外での経験型学習を総合し、実践を通じて専門的な知識・技能を活用する能力を身につけます。

- ・2年次と3年次に履修するプロジェクトマネジメント科目では、企業や外部団体と連携し、プロジェクトの実践を通じて課題発見・解決の手法と専門的な知識・技能の活用について学びます。
- ・4年次で履修する卒業研究では、身につけた専門的な知識・技能を活かし、大学での学修を総合した集大成としての卒業研究を作成します。

2) 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていき

ます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービスラーニング、インターンシップ、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実社会における課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を通じて学びを深めます。さらに、そこで得た経験を、「ふりかえり」を通じて教室内の講義型授業と連動させ、さらに次の経験学習につなげることで学びの内化・外化を活性化します。

(3) PBL（問題解決型学習）を取り入れます

企業や行政・外部組織等との協働による PBL を取り入れます。チームでプロジェクトを運営し、情報の収集と分析、企業や外部団体との連携、問題の発見と解決、そして連携先に対するプレゼンテーションまでを実践することで、ビジネスコミュニケーション力を身につけ、大学での学びの総合化をはかります。

(4) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答案は可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(5) ICT システムを利用した教育方法を取り入れます

e ラーニングシステムおよび e ポートフォリオシステムを利用します。
e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。
e ポートフォリオは、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けや次の目標設定に利用します。

(6) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画をたてて学修を進めます

4 年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4 年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

(7) 自己評価とふりかえりをします

目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオを 4 年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。さらに、各学期末に KUISs 学修ベンチマークの達成度について学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を深めます。

3) 教育評価

それぞれの科目における評価、および、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる 6 つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。学期の終盤には総合的全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせで多面的・総合的に行います。

(2) KUISs 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します

半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUISs 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。

(3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します

2 年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行い、その合格を進級要件とします。

(4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します

4 年間の学修成果は、観光に関わる課題を扱った「卒業研究」（必修）によって総合

的に評価を行います。在学期間が 3 年以上に達し、履修規程に定める GPA と修得単位数の条件を満たすことに加え、上記「到達確認試験」の合格によって、「卒業研究」の履修が認められます。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.kuins.ac.jp/academics/tourism/3policy.html）
3. 入学者選抜の方針【AP】 求める学生像 本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。 高等学校での修得が望ましい水準 [知識・技能] (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 (2) 高等学校までの履修内容の「国語総合（現代文）」を通じて、日本語運用能力（聞く・話す・読む・書くことについての基礎力、漢字検定 3 級程度以上）を身につけている。 (3) 基本的な英語力（英検準 2 級程度）を身につけている。具体的には、英語で日常の簡単な挨拶や自分の身の回りのことについて表現したり、まとまった英文を読んで理解したり、書いたりできる。 (4) 基礎的数学力（数学 I・数学 A 程度）を身につけている。 [思考力・判断力・表現力] (5) 身近な社会の問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。 [主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度] (6) 観光について興味があり、観光ビジネスについての知識や技能を学び、社会で活かしたいという意欲がある。 (7) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。 [入学前教育] (8) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 教育学部 教育福祉学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html
グローバル化が進行する社会において求められる世界市民としての汎用的な知識、技能、態度・志向性を身につけ、教育や福祉の学びを通して、一人ひとりの立場を理解し、人間愛にあふれた専門的職業人を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/welfare/3policy.html

1. 学位授与の方針【DP】

教育福祉学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、グローバルな視野に立った教養と教育学・社会福祉学の専門的知識・技能及び以下の 6 つの力・資質を総合的に活用して、教育・福祉専門職として実践できる素養を備えた人物に学位(教育福祉学)を授与します。

(1) 自律的で主体的な態度（自律性）

教員・社会福祉従事者としての使命と目標を明確に持ち、教育・社会福祉業務に自律的・意欲的に取り組むことができる。

(2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）

教員・社会福祉従事者として社会の動向をふまえ、教育や福祉の現場において必要とされる実践力を身につけ、地域社会や他者のために責任ある行動をとることができる。

(3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）

教員・社会福祉従事者として、その人がもつ背景や属性、価値観等の多様性を理解し、相手の立場を尊重することができ、地域、保護者、他職種等との連携・協働を行うことができる。

(4) 問題発見・解決力

教員・社会福祉従事者として、教育や福祉の現場の諸課題についての問題を発見・理解し、問題解決に必要な論理的・実践的知識および資源を活用し、適切な研究・実践方法を選択・計画し、行動することができる。

(5) コミュニケーションスキル

教員・社会福祉従事者として教育や福祉の現場で円滑にコミュニケーションをとることができるスキルを獲得し、相互の立場を尊重した人間関係を構築することができる。

(6) 専門的知識・技能の活用力

教員・社会福祉従事者として必要とされる教育学や社会福祉学の体系的な知識や学修成果を状況に応じ総合的かつ包括的に活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/welfare/3policy.html>）

2. 教育課程編成の方針【CP】

本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識・技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1) 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目で体系的に構成し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。また、大学全体として、さまざまな分野で求められている「安全で安心」な組織をマネジメントする力を養うための教育を行います。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、「大学卒業後まで見通した生き方の基盤（教養）を学ばせる」という意味と「大学の教育での学びの基盤となるべきスキルなどを学ばせる」という 2 つ意味を持っており、それを実現する教育課程を編成します。

・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。

- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・DX化が進展する社会で必要となるデータサイエンスに関する知識とスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。
- ① 基盤教育科目においては、リベラルアーツとして「人間学」を中心に「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3領域の履修を通して、現代社会における広範な問題の理解のための基本的視点・考え方を学びます。さらにそれらの学びを生かし、自らのキャリアを考えるキャリア教育科目を学びます。
- ② KUISs ベーシックス科目群では、初年次教育を通して大学への適応をはかり、大学における基本的な学習スキルと社会に出てからのコミュニケーションスキルを修得します。
- ③ コモンベーシックス科目群では、外国語科目や ICT 活用などの情報系科目を含んで、基礎的なコミュニケーションスキルの獲得をはかります。
- ④ 語学教育においては英語教育において習熟度に基づくクラス編成をとり、定期的に外部テスト等を用いて進捗を確認し、学生自身の学習進度にあったコミュニケーション能力の育成をはかります。
- ⑤ すべての学生は国外における経験学習として、2 年次もしくは 3 年次に海外プログラム（グローバルスタディ）の履修を行い、その参加に先立ち、「リサーチ入門」を必修科目として 1 年次後半に履修します。
- ⑥ すべての学生に、1 年次において、地域における経験学習としてサービslラーニング、またはインターンシップの履修を選択必修とし、学生自身の専攻選択も視野に入れ、積極的に地域へ貢献する学外活動に参加します。
- ⑦ すべての学生が「評価と実践Ⅰ」と「評価と実践Ⅱ」を履修し、評価の意義と重要性に関する知識・理解のうえに、自分自身の学修の成果に関する自己評価を行い、それを第三者に説明できるようになることが求められます。

(2) 専門教育科目

専門教育については、教育福祉学科の共通した基礎科目群と 2 つの専攻（こども学専攻、福祉学専攻）の中心となる基幹科目（専攻コア科目）群、基幹科目をさらに発展的な学修につなげる展開科目群の 3 つの科目群からなる編成となっています。

1 年次終了時点で専攻・コースを選択し、選択した専攻・コースの教育目標に沿った科目を履修します。

1) こども学専攻

・教育・保育コース

保育士に必要な知識、技能の習得を図り、実習、インターンシップ等の実践的体験をすることで専門職として活躍できる実践力を身につけます。

・教育専修コース

小学校、特別支援学校等の教員に必要な知識、技能の習得を図り、実習、インターンシップ等の実践的体験し、専門職として活躍できる実践力を身につけます。

・初等英語コース

小学校、中学校等の教員に必要な知識、技能の習得を図り、実習、インターンシップ等の実践的体験をし、英語を指導できるグローバルな視点を持った専門職として活躍できる実践力を身につけます。

2) 福祉学専攻

・社会福祉専修コース

ともに生きる社会に貢献し、グローバルな視点を持った社会福祉の専門職に必要な知識、技能の習得を図り、実習、インターンシップ等の実践的体験し、福祉現場で活躍で

きる実践力を身につけます。

・福祉・保育コース

こども家庭福祉の専門職に必要な知識、技能の習得を図り、実習、インターンシップ等の実践的体験し、福祉現場で活躍できる実践力を身につけます。

- ① 専攻・コースで取得可能な資格・免許が取得できるよう、保育士資格・幼稚園教諭免許・小学校教諭免許・特別支援学校教諭免許の取得・社会福祉士国家試験受験資格の取得等に必要な科目を、2年次から体系的・系統的に配置します。
- ② 教育や福祉の現場で求められている実践的能力の育成のために、特別支援教育関連科目と初等教育での英語教育科目（初等英語教育研究、発音指導）、防災士資格取得関連科目等の履修を奨励します。

2) 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

- (1) アクティブラーニングを重視した教育方法を取り入れます。

主体的な学びの力を高めるために、ハイ・インパクト・プラクティスを充実させ、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を、専門教育科目を中心に実施します。

- (2) 評価のフィードバックを行います。

専門教育科目においては、教室外学修の課題を課す時期と課題の整合性・連続性をはかり、形成的評価のための期中のフィードバックを行います。

- (3) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます。

サービスマーケティング、インターンシップ、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

- (4) ICTシステムを利用した教育方法を取入れます。

eラーニングシステムおよびeポートフォリオシステムを利用します。

eラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。

eポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標設定に利用したりします。

- (5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画をたてて学修を進めます。

4年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

- (6) 自己評価とふりかえりをします。

目標・記録・評価の総合的ツールであるeポートフォリオを4年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。さらに、各学期末にKUISs学修ベンチマークの達成度について学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を深めます。

- (7) 採用試験、国家試験対策をします。

教員や保育者としての採用試験、社会福祉士等の国家試験受験に必要な専門的知識の能力確認のために、外部テストの受験及びeラーニングによる自己学習の推進や結果の継続的なモニタリングを行います。また、学科教員による採用試験・国家試験対策のための時間を開設し、2年次から段階を踏んだ採用試験対策プログラムを実施します。

3) 教育評価

それぞれの科目における評価、および、「卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）」に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います。

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用したりします（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせで多面的・総合的にを行います。

(2) KUISs 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します。

半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUISs 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。

(3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します。

2 年生終了時には、それまでの専門必修科目の水準を修得し、卒業研究を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

(4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します。

4 年間の学修成果は卒業研究（必修）によって行い、複数教員によって評価ルーブリックを活用し総括的評価を行います。卒業研究の履修条件としては、履修規程に定める累積 GPA、3 年次までの修得単位数に加え、上記「到達確認試験」の合格を求めます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/welfare/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

[知識・技能]

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

(2) 教育、保育、社会福祉の専門的な知識・技能を学修するための基盤となる日本語運用力（文章読解力、漢字検定 3 級程度）や表現力（課題に応じた内容をまとめる力、文章を読んでまとめる力他）を身につけている。

(3) 基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。

(4) 基礎的数学力（数学 I・数学 A 程度）を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

(5) 教育、保育、社会福祉に関する諸課題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

(6) 教育、保育、社会福祉領域の専門性の高い仕事に就く意欲がある。

(7) 学校での課外活動・ボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協働して活動や学習をすることに進んで参加したり、課題をやり遂げたりすることができる。

(8) 学校でのグループ学習で、他の人たちと協働して、与えられたテーマに必要な情報を収集・整理して、自分たちの提案をすることができる。

(9) テーマに基づいて情報を選択的に収集し、他の人にもわかりやすい構成でまとめることができる。

[入学前教育]

(10) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 経営学部 経営学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html
グローバル化が進行する社会において求められる世界市民としての汎用的な知識・技能、態度・志向性を身につけ、経営に関する実践的な知識・技能を総合的に活用し、社会や組織活動に貢献できる人間を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/management/3policy.html
1. 学位授与の方針【DP】 経営学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、グローバルな視野に立った教養と専門的知識・技能、および、以下の 6 つの力・資質を総合的に活用して、営利・非営利の継続的事業体（以下「組織や集団」と呼ぶ）のマネジメント*ができる素養を備えた人物に学士（経営学）の学位を授与します。 *本学科の 3 つのポリシーにおける「マネジメント」とは、組織や集団の目的を達成するための効果を最大化する手法のことをいいます。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標や組織や集団の目的を実現するために責任をもって、意欲的に行動することができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 社会のルールを守り、他者と協働しながら、組織や集団の目的達成に貢献することができる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解） 世界には、様々な文化や価値観をもった人々がいることを理解し、違いを尊重しながら行動できる。 (4) 問題発見・解決力 組織や集団において情報の収集・分析を行い、問題を発見したり、解決へのアイデアを提案したりできる。 (5) コミュニケーションスキル 組織や集団の内外で、他者と意見を交わし調整することができる。 (6) 専門的知識・技能の活用力 組織や集団の構成員として、マネジメントの知識・技能を、状況に応じて適切に活用することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/management/3policy.html
2. 教育課程編成の方針【CP】 本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識・技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。 1) 教育内容 本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、

基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・DX化が進展する社会で必要となるデータサイエンスに関する知識とスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、組織や集団のマネジメントに対する理解とそれを実践するための知識や方法の基礎を学びます。

- ・1年次から順次、マネジメントの基礎となる経営、経済、マーケティング、ファイナンス、統計分野に関する知識と方法を学びます。
- ・1年終了時には、学生の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。本学科では、次の4つの専攻を設定します。

1) 経営・マーケティング専攻

効果的なマーケティング戦略を打ち立て、組織としての実践に結び付ける方法を学びます。

2) ビジネスデザイン専攻

デザインのセンスを持ちつつ、定量データを見て市場分析する方法を学びます。

3) 地域マネジメント専攻

地域を活性化し持続可能な社会をマネジメントする方法を学びます。

4) 防災・危機マネジメント専攻

安全・安心な社会を維持し、災害への対応や備えをマネジメントする方法を学びます。

- ・2年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、その専攻の教育目的に沿った科目を体系的に学びます。
- ・2年次には、現実の課題について気づきと理解を深めるインターンシップ・プログラムに参加します。
- ・2年次以降、教室での学びと現場での経験を統合していきます。

2) 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービslラーニング、インターンシップ、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案し

たりすることにより、経験を次の学習に活かします。 (3) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います 学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答案は可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。 (4) ICT システムを利用した教育方法を取入れます e ラーニングシステムおよび e ポートフォリオシステムを利用します。e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等にご利用します。e ポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標を設定したりするのに利用します。 (5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画をたてて学修を進めます 4 年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4 年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。 3) 教育評価 それぞれの科目における評価、および、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる 6 つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。 (1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います 各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。学期の終盤には総合的全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせで多面的・総合的に行います。 (2) KUINS 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します 半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUINS 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。 (3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します 2 年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。 (4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します 4 年間の学修成果は、組織や集団のマネジメントに関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.kuins.ac.jp/academics/management/3policy.html）
3. 入学者選抜の方針【AP】 求める学生像 本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。 高等学校での修得が望ましい水準 [知識・技能]	

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 (2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くことについての基礎力を身につけている。 (3) 基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。 (4) 基礎的数学力（数学 I ・数学 A 程度）を身につけている。 [思考力・判断力・表現力] (5) 身近な社会の問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。 [主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度] (6) 経営学について興味があり、マネジメントについての知識や体験を社会で活かしたいという意欲がある。 (7) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。 [入学前教育] (8) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。
--

学部等名 心理学部 心理学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html
人間の心理や行動ならびに社会生活を多視点から理解するための専門知識を習得し、人間や社会について科学的に理解し、問題の発見と解決を図る能力を持ち社会に貢献できる人間を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/psychology/3policy.html
1. 学位授与の方針【DP】 心理学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、グローバルな視野に立った教養と心理学に関する専門的知識・技能、および、以下の 6 つの力・資質を総合的に活用して、広く社会に貢献できる素養を備えた人物に学士（行動科学）の学位を授与します。 (1) 自律的で主体的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために意欲的であるとともに、自ら考え、自らを律して責任のある行動ができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 主体的・積極的に社会や他者のために貢献する行動ができる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる力（多様性理解） 心と行動の成り立ちや、人に共通する心や行動の傾向、個人の特性による違いを理解し、他者への共感的な感覚や態度を身につけ、社会や世界の一員として考え、行動することができる。 (4) 問題発見・解決力 よりよい将来を目指して、常に問題意識を持って現状を理解することに努めるとともに、適切な情報収集及び、修得した心理学的知識や技能を活用して分析し、それに基づいて緩和・解決のアイデアを構想し、実行することができる。 (5) コミュニケーションスキル

人に共通する心や行動の傾向、個人の特性による違いを理解・尊重したうえで、思いや考えを的確に表現・発信し、他者と意見を交わし調整しながら、様々な人と協働して問題解決にあたることができる。

(6) 専門的知識・技能の活用力

人の心の機能に関する諸理論や知見、実証的な分析の技能を活用して、(1) から (5) の実現にあたることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/psychology/3policy.html>）

2. 教育課程編成の方針【CP】

本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識・技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1) 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要となる知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・DX化が進展する社会で必要となるデータサイエンスに関する知識とスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、心と行動の成り立ちや、人に共通する心や行動の傾向、個人の特性による違いについて、心理学のさまざまな理論や知見を活用して理解するとともに、自己や他者、社会の課題を発見し、他者と協働して解決・緩和を図れるようにします。

- ・1年次から順次、心理学の基礎的な知識と方法を学びます。
- ・自己や他者、社会の課題の気づきを得たり理解を深めたりすることができるようになるためにサービ斯拉ーニングに参加します。
- ・1年終了時には、学生が自身の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。

本学科では、次の4つの専攻を設定します。

1) 犯罪心理学専攻

犯罪者・非行少年の心理、事件を解明する視点や、再犯抑止、防犯について学びます。

2) 臨床心理学専攻

さまざまな心の問題を抱えた人や、日常的な人間関係における円滑なかかわり方について学びます。

3) 災害心理学専攻

自然災害、事故をはじめとする人的災害等の被害者の援助や、防災・減災に役立つ人の心や行動の理解について学びます。

4) 産業・消費者心理学専攻

商品企画や開発、広告デザインなど、多様なビジネスシーンや、社会活動をはじめとする日常のさまざまな場面で実践できる心理学を学びます。

- ・2年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、自身の目的の達成に役立つ科目を体系的に学びます。
- ・2年次以降、現実の課題について気づきと理解を深めるサービ斯拉ーニング・グローバルスタディに参加します。
- ・2年次以降、教室での学びと現場での経験を統合していきます。

2) 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次のとおりです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービ斯拉ーニング、インターンシップ、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(3) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答えは可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(4) ICT システムを利用した教育方法を取入れます

eラーニングシステムおよびeポートフォリオシステムを利用します。eラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。eポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標を設定したりするのに利用します。

(5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画を立てて学修を進めます

4年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

3) 教育評価

それぞれの科目における評価、および、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用したりします（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせる多面的・総合的に行います。

(2) KUISs 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します

半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定

められた評価指標（KUISs 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。 (3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します 2 年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。 (4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します 4 年間の学修成果は、人の心や行動など心理学に関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開 https://www.kuins.ac.jp/academics/psychology/3policy.html）
3. 入学者選抜の方針【AP】 求める学生像 本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。 高等学校での修得が望ましい水準 [知識・技能] (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 (2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くことについての基礎力を身につけている。 (3) 基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。 (4) 基礎的数学力（数学 I・数学 A 程度）を身につけている。 [思考力・判断力・表現力] (5) 身近な社会の問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。 [主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度] (6) 安全・安心な社会を作りたいことを望み、そのために心理学を学び、その知見を活用したいという意欲がある。 (7) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、グループワークなど他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。 [入学前教育] (8) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。
学部等名 社会学部 社会学科
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開） https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html
社会学の視点とデータサイエンスの基礎知識を身につけ、データにもとづく思考力と問題解決力を持ち、グローバル化した現代社会で活躍できる人材を養成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/sociology/3policy.html>

1. 学位授与の方針【DP】

社会学部社会学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、学校法人濱名山手学院の教育ミッションにもとづき、グローバルな視野に立った教養と社会学・データサイエンスに関する専門知識・技能、および、以下の 6 つの力・資質を総合的に活用して、広く社会に貢献できる素養を備えた人物に学士（学術）の学位を授与します。

（1）自律的で主体的な態度（自律性）

所属する集団・組織における自らの役割を自覚し、責任をもって行動することができる。

（2）社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）

他者を尊重し、協働しながら、集団・組織の目的達成に貢献することができる。

（3）多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）

多様な社会的背景や価値観を持つ人々を理解し、違いを尊重しながら行動できる。

（4）問題発見・解決力

社会のさまざまな事象について深く考えて課題を発見し、論理的に解決・改善についての提案ができる。

（5）コミュニケーションスキル

他者との対話・交渉の際に、根拠にもとづいた論理的な主張を行うことができる。

（6）専門的知識・技能の活用力

社会の実態を理解するために、社会学の知識、および社会調査やデータ分析の手法を適切に活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/sociology/3policy.html>

2. 教育課程編成の方針【CP】

本学科では、卒業の認定に関する方針に掲げる知識・技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1) 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

（1）基盤教育科目

基盤教育科目では、大学での学修に必要となる基本的なスキルを身につけるとともに、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。

基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

①KUISs ベーシックス科目群では、初年次教育を通して大学への適応をはかるとともに、レポートの書き方や批判的な思考など大学の学修において必要となる基本的な学習スキルやコミュニケーションスキルを修得します。また、必修科目「評価と実践Ⅰ」「評価と実践Ⅱ」では、評価の意義と重要性を理解し、4 年間を通じて自分自身の学修の成果に関する自己評価を行います。また、卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

②コモンベーシック科目群では、グローバル社会で公用語となっている英語を用いたコミュニケーション能力の獲得をはかります。英語科目では、習熟度にもとづくクラス編成をとり、定期的に外部テスト等を用いて進捗度を確認していきます。また、第二外国語としてアジア言語から中国語と韓国・朝鮮語を学ぶ科目を配置します。さらに生涯を通じた健康づくりや、スポーツを通じて、年齢や人種を超えて他者との連帯感を涵養するために、生涯スポーツ科目を配置します。

③リベラルアーツ科目群では、まず全学共通の必修科目「人間学」で、「人間とは何か」を問いつつ、多面的・多角的に人間や生き方を考えます。そのうえで、「人間の理解」、「社会と生活」、「科学と生活」の3つの各領域をテーマとする科目の履修を通して、「持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）」などで挙げられている現代社会における諸問題を理解するための基本的な視点と考え方を学びます。また、サービ斯拉ーニング及びグローバルタディなど、経験学習の手法を用いて、国内外における地域貢献活動への参加を通じて、社会的な問題について理解し、解決策について考えます。

(2) 専門教育科目

専門教育では、社会学およびデータサイエンス領域の「基礎科目」群と2つの専攻（社会学専攻、データサイエンス専攻）の中心となる「基幹科目」群、基幹科目をさらに発展的な学修につなげる「展開科目」群、およびこれら3つの科目群と補完関係にあり、大学での学びの集大成へと導く「総合演習」科目群を編成します。

①1年次には、社会学のものの見方・考え方の基本、および、社会調査とデータサイエンスの基礎など「基礎科目」を中心に学びます。

②1年終了時点で専攻を選択します。本学科では、次の2つの専攻を設定します。

1) 社会学専攻

行政や民間の諸機関における立案・調査・研究等ができるように、社会調査の方法論とスキルを学び、その活用力を身につけます。

2) データサイエンス専攻

イノベーションの創出に寄与するデータ分析ができるように、データサイエンスやデータエンジニアリングの基礎知識とスキルを学び、その活用力を身につけます。

③2年次以降は、専攻ごとに履修すべき科目を定めています。専攻の科目を履修することで、自身の目的の達成に役立つ科目を体系的に学びます。

④2年次以降、現実の課題について気づきと理解を深めるため、教室外での活動を伴う演習科目を配置し、教室での学びと現場での経験を統合していきます。

2) 教育方法

学生が主体的・能動的に学べるようにアクティブラーニングの視点を取り入れた教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業では、グループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、受講生同士が協働することで、学生一人ひとりが主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービ斯拉ーニング、グローバルスタディ、ソーシャルデザイン実践演習といった経験学習の機会を設定します。現場（フィールド）では、社会調査の方法論やスキル、あるいはデータ分析の手法を用いて課題を発見したり、デザイン思考などの発想法を用いて課題解決策を提案したりします。フィールドに出る前後には事前学習と事後学習の機会を設け、経験からの学びを次の学習に活かします。

(3) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。また、評価後のレポートや答案は可能な限りすべて学生に返却することにより、学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(4) ICT システムを利用した教育方法を取入れます

e ラーニングシステムおよび e ポートフォリオシステムを利用します。e ラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。e ポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標設定に利用したりします。

(5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画をたてて学修を進めます

4 年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、自律的に 4 年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

(6) 自己評価とふりかえりをします。

目標・記録・評価の総合的ツールである e ポートフォリオを 4 年間かけて作成し、自己の学修成果と学生生活を自分自身で管理し、「ふりかえり」を行います。さらに、各学期末に KUISs 学修ベンチマークの達成度について学生による自己評価を行い、アドバイザー教員との面談を通し、「ふりかえり」を深めます。

3) 教育評価

それぞれの科目における評価、および、卒業の認定に関する方針に掲げる 6 つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせる多面的・総合的に行います。

(2) KUISs 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します

半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUISs 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。

(3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します

2 年次終了時には、それまでの専門必修科目の学習内容の修得状況を確認し、「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」及び「卒業論文・制作」を履修する基礎レベルが修得できているかを確認する「到達確認試験」を行い、その合格を進級要件とします。

(4) 「卒業論文・制作」によって卒業時の専門知識・技能の修得を確認します。

在学期間が 3 年以上に達し、履修規程に定める GPA と修得単位数の条件を満たすことに加え、上記「到達確認試験」の合格により、「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」及び「卒業論文・制作」の履修を認めます。「卒業研究Ⅰ」及び「卒業研究Ⅱ」の担当教員の指導のもと、「卒業論文・制作」で作成・制作する最終成果物に 4 年間の学修成果を表します。最終成果物は、複数教員がルーブリックを用いて総括的に評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/sociology/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

求める学生像

本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」及び「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

高等学校での修得が望ましい水準

[知識・技能]

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。
- (2) 高等学校までの履修内容の「国語総合（現代文）」を通じて、日本語運用能力（聞く・話す・読む・書くことについての基礎力、漢字検定 3 級程度以上）を身につけている。
- (3) 基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。
- (4) 基礎的数学力（数学 I・数学 A 程度）を身につけている。

[関心・意欲]

- (5) 社会のさまざまな事象や問題に関心を持ち、それらの関係性や解決策について考える意欲を表すことができる。

[思考力・判断力・表現力]

- (6) 身近な社会の問題について、筋道を立てて考え、説明することができる。

[表現力]

- (7) 自分の経験や考えを的確に表現し、伝えることができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

- (8) 積極的に他者と関わり、対話を通して理解しようと努めることができる。

[入学前教育]

- (9) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 保健医療学部 看護学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/aim.html>

看護学に係る専門知識を習得し、豊かな人間愛と倫理観を育み、様々な環境下で生活するあらゆる健康レベルにある人々の生命と尊厳を守り、最適な健康状態に導き、人、地域、社会、時代が求める看護サービスを追求できる看護専門職者を育成するとともに、それを可能とする学術研究を行うことを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開）

<https://www.kuins.ac.jp/academics/nurse/3policy.html>

1. 学位授与の方針【DP】

看護学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、グローバルな視野に立った教養と看護学の専門的知識・技術・態度及び以下の 6 つの力・資質を総合的に活用して、科学的思考に基づいたヒューマンケアを実践できる素養を備えた人物に学士(看護学)の学位を授与します。

- (1) 自律的で主体的な態度（自律性）
看護職を目指す者として、責任をもって意欲的に行動することができる。
- (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性）
社会のルールを守り、他者と協働しながら、国際感覚を持った看護職として社会に貢献することができる。
- (3) 多様な文化やその背景を理解し受け容れる能力（多様性理解）
世界には、様々な文化や価値観をもった人々がいることを理解し、看護の対象者の違いを尊重しながら行動できる。
- (4) 問題発見・解決力

看護の対象者の情報の収集・分析を行い、課題を発見し、解決のための計画を立案し実施できる。

(5) コミュニケーションスキル

対象者の思いや考えを理解し、自分の考えを論理的に整理して工夫し伝えることができる。

(6) 専門的知識・技能の活用力

看護における現象、習得した知識と技術を用いて説明し、個別性に合わせて活用することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/nurse/3policy.html>）

2. 教育課程編成の方針【CP】

本学科では、「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げる知識・技能などを修得できるように、4年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。

1) 教育内容

本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。

科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。

基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。

(1) 基盤教育科目

基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。

基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。

- ・レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。
- ・人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。
- ・グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。
- ・DX化が進展する社会で必要となるデータサイエンスに関する知識とスキルを身につけます。
- ・異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。
- ・卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。

(2) 専門教育科目

専門教育科目では、看護学で求められる知識や技能の基礎を学びます。

- ・1年次には、医学、社会学、心理学などにより人を心身の両面から理解し、さらに基礎看護学の講義、演習、実習を通して看護の基礎的知識、技術を学びます。
- ・2年次には、領域別の看護学の講義、演習で学びます。
- ・2年終了時には、学生の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。本学科では2つの専攻を設定します。

1) 看護学専攻

科学的思考に基づいたヒューマンケアを実践できる看護専門職者となるための専門的知識・技術・態度を学びます。

2) 看護グローバル専攻

看護学専攻の内容に加えて、文化背景の異なる患者や住民への看護実践の基礎を学びます。

- ・3年次には領域別実習において、実習で体験した事柄を大学で学修した知識に基づいて理解し、実践できるよう学びます。看護グローバル専攻では、これらに加えて海外

研修を通して社会文化的背景の看護実践への影響を学びます。

- ・4年次の卒業研究および統合看護実習で、専門教育科目を中心とする教育内容の統合と総合化を行います。看護グローバル専攻では、これらに加えて海外研修での体験の振り返りや報告（発表）を通し、自らの異文化に対する価値観や見方を振り返り、異文化対応能力の向上を図ります。
- ・助産師コースおよび保健師コースは、3年次に学生の希望や適性などを考慮して決定します。3年次に選抜された者がそれぞれの国家試験受験資格の取得に必要な科目を3年次、4年次に履修します。

2) 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次の通りです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービ斯拉ーニング、各領域別実習・統合実習、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(3) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答えは可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(4) ICTシステムを利用した教育方法を取入れます

eラーニングシステムおよびeポートフォリオシステムを利用します。eラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。eポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標を設定したりするのに利用します。

(5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画を立てて学修を進めます

4年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

(6) 国家試験受験資格に必要な専門的知識を修得するため、1年次から段階的に学修します

eラーニングによる自己学習の推進や、外部テスト結果のモニタリングを行います。また学科教員による模擬試験・国家試験対策のための時間を開設し、1年次から段階を追って計画を立て、学修します。

3) 教育評価

それぞれの科目における評価、および、卒業認定・学位授与の方針に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用します（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせ、多面的・総合的にを行います。

- (2) KUISs 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します。
半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUISs 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。
- (3) 2 年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します。
2 年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。
- (4) 統合看護学実習及び卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します。
4 年間の学修成果は、統合看護学実習及び看護学に関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/academics/nurse/3policy.html>）

3. 入学者選抜の方針【AP】

求める学生像

本学科は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。

高等学校での修得が望ましい水準

[知識・技能]

- (1) 高等学校の教育課程を幅広く習得している。
- (2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くことについての基礎力を身につけている。
- (3) 基礎的英語力（英検 3 級程度）を身につけている。
- (4) 高等学校までの履修内容のうち、看護学を学ぶ上で基礎となる「理科（生物基礎または化学基礎）」や「数学（数学 I・数学 A）」を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

- (5) 身近な医療や看護の問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

- (6) 看護学について興味があり、看護についての知識や技術を社会で活かしたいという意欲を持っている。
- (7) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。

[入学前教育]

- (8) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 **現代社会学部 総合社会学科**

教育研究上の目的（公表方法：学部改編により募集停止。在学生には履修要項に掲載）

(概要) 総合社会学科（以下、「本学科」という）では、複雑に絡み合った現代社会の問題にアプローチするために、従来の学問の枠を超えて、社会学・心理学・経済学・建築学などの学問を横断した総合的な視野と知力を磨くことを目指し、問題発見能力、情報の収集とデータ分析力、コミュニケーション能力、さらには問題解決に向けての柔軟な想像力と行動力を備えた人材を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学部改編により募集停止。在学生には履修要項に掲載）
1. 学位授与の方針【DP】 現代社会学部では、所定の期間在学し、学部の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、所定の単位を修得し、以下の学部共通の能力及び学科固有の能力を備えた学生に卒業を認定するとともに学士の学位を授与します。 【現代社会学部 共通能力】 1. 健やかで調和のとれた人格と、しなやかで豊かな知性を自ら形成できる人間性。 2. 主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力。 3. 多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力。 【現代社会学部 総合社会学科の能力】 1. 修得した知識・技能を通して、現代社会の諸問題を総合的に理解する力。 2. 社会や文化について科学的に理解する力。 3. 新たな文化創造のための豊かな感性を涵養し、社会発展に貢献する力。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学部改編により募集停止。在学生には履修要項に掲載）
2. 教育課程編成の方針【CP】 現代社会の諸問題を総合的視点から理解するという本学部の目的に沿い、『現代社会学部』の教育課程は、従来の教養的学問から一歩踏み出し、まず「基礎科目」と「専門科目」とで編成しています。各学科のカリキュラム・ポリシーは次の通りです。 【現代社会学部 総合社会学科】 1. 「基礎科目」は、「リテラシー」、「国際コミュニケーション」、「総合基礎力」、「教養科目」に分類された科目を配置し、コンピュータを高度に活用した技術の修得や国際化時代に対応した言語の修得と異文化理解、さらには大学で求められる知的探求方法や論理的な表現方法の理解など、幅広い基礎知識や教養を修得させるとともに、大学で求められるスタディ・スキルズや社会で必要となる就業力を身につけさせる。 2. 「専門科目」は、総合社会学科での専門教育への導入となる科目である「専門共通科目」と総合社会学科の本来の専門科目である4つの「専門フィールド科目」で構成する。 3. 「専門共通科目」では、現代社会の諸問題についての基礎理解と、専門フィールドの理解につながる基礎知識を修得させる。 4. 「専門フィールド科目」は、〔社会学・メディアフィールド〕、〔心理学フィールド〕、〔経済・経営学フィールド〕、〔建築・インテリアフィールド〕の4つに分け、学生にいずれか一つのフィールドを主専攻として選択させる。また、複雑に絡み合った現代社会の問題やその関係性を理解するために、専攻するフィールド

を超えて、他のフィールドから幅広く関心ある科目を履修して多角的な視点を養うことを奨励する。 5. 学生を1年次から4年次までの各年次に配当されているゼミナールに所属させ、ゼミナールを通して自主的研究能力を体得させるとともに、「問題発見」、「情報の収集とデータ分析」、「コミュニケーション能力」、さらには「問題解決に向けての広い視野と想像力と行動力」を養う。 6. 身につけた知識やスキルを統合し、「問題解決に向けての広い視野と想像力と行動力」を育成するために、卒業研究と卒業論文・制作・設計を必修とする。 7. 教育効果を高めるために、演習科目は少人数クラスで実施する。 8. 神戸の都心に立地する特性を生かし、神戸のまちそのものを生きた教材にして体験型授業（フィールドワーク）を積極的に展開する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：学部改編により募集停止のため公開していません）
3. 入学者選抜の方針【AP】 （求める学生像） 本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。 （高等学校での修得が望ましい水準） 〔知識・技能〕 （1）高等学校の教育課程を幅広く修得している。 （2）高等学校までの履修内容の「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くことについての基礎力を身につけている。 （3）基礎的英語力（英検3級程度）を身につけている。 （4）基礎的数学力（数学Ⅰ・数学A程度）を身につけている。 〔思考力・判断力・表現力〕 （1）メディア文化や情報社会などの現代の社会問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。 〔主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〕 （1）①～④のうち、いずれかの目的意識と意欲がある。 ①メディア文化、情報社会、地域社会などの現代の社会問題に関心があり、社会学及び社会調査についての知識や体験を社会で活かしたいという意欲がある。 ②心のはたらきについて、調査や観察、実験などを通じた実際のデータに触れることから基礎的な理論を身につけ、その知識を社会で活かしたいという意欲がある。 ③グローバル化する日本経済や地域経済、企業経営に関連した分野で活躍したいという意欲がある。 ④生活空間に関心があり、建築やインテリアについて学び、実践したいという意欲がある。 （2）学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。 〔入学前教育〕 （1）入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるためのeラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 現代社会学部 観光学科
教育研究上の目的（公表方法：学部改編により募集停止。在学生には履修要項に掲載）
概要） 観光学科（以下、「本学科」という）では、「未来の日本の観光を担うに足る資質・能力・知識を兼ね備えた人材」を養成するために、観光を単なる経済活動ではなく、広い意味で文化に関わる社会的な現象として捉える「観光文化」の視点を養い、グローバル化する日本の観光を担うために不可欠な国際的視野と語学力を身につける。また、国際理解が必要な観光事業に携わる専門知識と人間力を身につけるとともに、主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図り、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力を備えた人材を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学部改編により募集停止。在学生には履修要項に掲載）
1. 学位授与の方針【DP】 現代社会学部では、所定の期間在学し、学部教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、所定の単位を修得し、以下の学部共通の能力及び学科固有の能力を備えた学生に卒業を認定するとともに学士（観光学）の学位を授与します。 【現代社会学部 共通能力】 1. 健やかで調和のとれた人格と、しなやかで豊かな知性を自ら形成できる人間性。 2. 主体的かつ柔軟に行動し、問題解決を図る力。 3. 多様な価値観を認め、他者とのコミュニケーションを深め、連携していく力。 【現代社会学部 観光学科の能力】 1. 歴史・伝統・文化・自然について幅広く知り、あらゆるモノ・コトを観光と結びつけて考えることができる。 2. グローバルな交流と平和を推進する、新しいツーリズムの価値創造に関心を持つ。 3. 経験から得た自信と常に成長しようとする意欲、ホスピタリティを備え、自らを社会に役立てようとする。 4. 異なる価値観を理解し、自分の考えや日本の魅力を的確に伝えるコミュニケーション力を備える。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学部改編により募集停止。在学生には履修要項に掲載）
2. 教育課程編成の方針【CP】 実務経験と座学（正課授業やキャリア教育）を効果的に組み合わせて学生の力を高めるカリキュラムを構築する。科目分類と目的は以下の通り。 1. 「基礎科目」 「リテラシー」、「国際コミュニケーション」、「キャリア」、「教養科目」の科目群を置き、以下の力を育成する。 「リテラシー」「国際コミュニケーション」科目では、論理的な表現方法、言語(外国語)の習得、コンピュータやインターネットの知識の修得などを通じて、発信する力・伝える力を育成する。

「キャリア」科目では、大学で必要なスタディ・スキルズや社会で必要となる就業力を育成する。 「教養科目」では、人文学、社会科学、自然科学の幅広い教養を身につける。 2. 「専門科目」 「専門共通科目」と「分野別専門科目」と「演習科目(ゼミナール)」に分けて科目を置く。 (ア)「専門共通科目」 観光学科の専門教育の基礎となる必修科目を配置し、現代社会の諸問題についての基礎理解と、分野を問わず必要となる観光学の基盤となる知識・考え方の習得を図る。さらに選択科目として、特殊講義と観光学特別演習と両学科開講科目を置く。特殊講義と観光学特別演習は、実務家による指導や観光の現場での取り組みにより、現場の知に触れ、問題解決能力や社会的実践力の向上を図る。両学科開講科目では、観光学に隣接・関連する専門分野の理解を深める。 (イ)「分野別専門科目」 〔観光ビジネス〕、〔地域創造〕、〔グローバルコミュニケーション〕の3分野に分けて観光の諸相を扱う選択科目を配置し、具体的諸領域ごとに、より専門性の高い能力、学識を修得する。現代のツーリズムではあらゆるモノ・コトと観光が結びつくことを念頭に、地域社会、ビジネス、グローバル社会と観光の関係性について多面的に学ぶ。 (ウ)「演習科目(ゼミナール)」(「基礎演習」「課題研究」「専門研究」「卒業研究」)各年次にゼミナールを置き、観光学の知見と手法を用いて自律的かつ論理的に思考・判断する力を高める。そこでは「問題発見」、「情報の収集とデータ分析」、「コミュニケーション能力と表現能力」、「問題解決に向けての広い視野と想像力と行動力」を育成する。 3. 教育効果を高めるために、演習科目は少人数クラスで実施する。 4. 神戸の都心に立地する特性を生かし、神戸のまちそのものを生きた教材にするのは勿論のこと、留学、演習、インターンシップ等により国内、海外の現場で学習を深める。	入学者の受入れに関する方針（公表方法：学部改編により募集停止のため公開していません）
3. 入学者選抜の方針【AP】 （求める学生像） 本学科は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人を求めます。 （高等学校での修得が望ましい水準） 〔知識・技能〕 (1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。 (2) 高等学校までの履修内容の「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くことについての基礎力を身につけている。 (3) 基礎的英語力（英検3級程度）を身につけている。 (4) 基礎的数学力（数学Ⅰ・数学A程度）を身につけている。 〔思考力・判断力・表現力〕 (1) 光ビジネス、国際関係、地域、文化等に関連した社会の様々な問題について知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる 〔主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度〕	

(1) 観光、イベントビジネスを専門的に学び、観光産業や地域振興分野で活躍したいという意欲がある。 (2) 将来の夢と理想のキャリアの実現に積極的にチャレンジするという意欲がある。 (3) 海外に興味を持ち、使える語学を学び、将来の仕事に役立てたいという意欲がある。 (入学前教育) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

学部等名 人間科学部 人間心理学科
教育研究上の目的（公表方法：学部学科名称変更により募集停止。在学生には履修要項に掲載）
(概要) 人間心理学科（以下、「本学科」という）では、本学の課程を修め、126 単位の単位修得と必修等の条件を充たし、グローバルな視野に立った教養と心理学に関する専門的知識・技能および、以下の力・資質を総合的に修得した人材を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：学部学科名称変更により募集停止。在学生には履修要項に掲載）
1. 学位授与の方針【DP】 KUISs 学修ベンチマークで定めている教育目標に対して、以下の 6 つの力・資質を備えた人物に学位を授与します。 (1) 自律的で意欲的な態度（自律性） 自分の目標をもち、その実現のために意欲的であるとともに、自ら考え、自らを律して責任のある行動ができる。 (2) 社会に能動的に貢献する姿勢（社会的貢献性） 主体的・積極的に社会や他者のために貢献する行動ができる。 (3) 多様な文化やその背景を理解し受け入れる能力（多様性理解） 心と行動の成り立ちや、人に共通する心や行動の傾向、個人の特性による違いを理解し、他者への共感的な感覚や態度を身につけ、社会や世界の一員として考え、行動することができる。 (4) 問題発見・解決力 よりよい将来を目指して、常に問題意識を持って現状を理解することに努めるとともに、適切な情報収集及び、修得した心理学的知識や技能を活用して分析し、それに基づいて緩和・解決のアイデアを構想し、実行することができる。 (5) コミュニケーションスキル 人間に共通する心や行動の傾向、個人の特性による違いを集団の行動の普遍性と個別性を理解したうえで、自分の思いや考えを的確に表現・発信し、他者と意見を交わし調整しながら、様々な人と協働して問題解決にあたることができる。

(6) 専門的知識・技能の活用力 人の心の機能に関する諸理論や知見、実証的な分析の技能を活用して、(1) から (5) の実現にあたることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：学部学科名称変更により募集停止。在学生には履修要項に掲載）
2. 教育課程編成の方針【CP】 本学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得できるように、4 年間の教育内容を体系的に編成し、教育方法を工夫して、達成状況を評価していきます。 1 教育内容 本学科の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目で構成し、科目内容に応じて分類し、基礎から応用へ段階的に学べるように編成します。 科目の段階的編成を明確にするために、すべての科目に内容と難易度を表現する記号と番号を付するナンバリングを行い、教育課程の体系と履修の優先度を明示します。 基盤教育科目と専門教育科目の内容は以下の通りです。 (1) 基盤教育科目 基盤教育科目では、生涯にわたって活躍し、豊かな人生を送るための基盤となる教養やスキルを修得します。基盤教育科目は低学年を中心に編成し、以下の内容について学びます。 ・ レポートの書き方や批判的な思考などの大学での学びに必要な知識を学びます。 ・ 人間、社会、科学をテーマとする生活に直面した課題を考え、教養を身につけます。 ・ グローバル社会に必要な語学、ICT（情報通信技術）、スポーツに関するスキルを身につけます。 ・ 異文化の社会について理解し、協力する態度を身につけます。 ・ 卒業後の進路を見据えたキャリア形成を養います。 (2) 専門教育科目 専門教育科目では、心と行動の成り立ちや、人に共通する心や行動の傾向、個人の特性による違いについて、心理学のさまざまな理論や知見を活用して理解するとともに、自己や他者、社会の課題を発見し、他者と協働して解決・緩和を図れるようにします ・ 1 年次から順次、心理学の基礎的な知識と方法を学びます。 ・ 自己や他者、社会の課題の気づきを得たり理解を深めたりすることができるようになるためにサービ斯拉ーニングに参加します。 ・ 1 年終了時には、学生が自身の希望や適性などを考慮して専攻を決定します。 本学科では、次の 4 つの専攻を設定します。 1) 犯罪心理学専攻

犯罪者・非行少年の心理、事件を解明する視点や、再犯抑止、防犯について学びます。

2) 心理カウンセリング専攻

さまざまな心の問題を抱えた人や、日常的な人間関係における円滑なかかわり方について学びます。

3) 災害心理学専攻

自然災害、事故をはじめとする人的災害等の被害者の援助や、防災・減災に役立つ人の心や行動の理解について学びます。

4) 産業心理学

商品企画や開発、広告デザインなど、多様なビジネスシーンや、社会活動をはじめとする日常のさまざまな場面で実践できる心理学を学びます。

- ・2年次以降、専攻ごとに履修すべき科目を定めます。専攻の科目を履修することで、自身の目的の達成に役立つ科目を体系的に学びます。
- ・2年次以降、現実の課題について気づきと理解を深めるサービ斯拉ーニング・グローバルタディに参加します。
- ・2年次以降、教室での学びと現場での経験を統合していきます。

2 教育方法

アクティブラーニングの視点を取り入れ、学生が能動的に学べる教育方法を実践します。主な手法は次のとおりです。

(1) グループワーク等を重視した学習方法を取り入れます

教室内の講義型授業においてもグループワークやペアワーク、ディスカッションを活用します。これらの手法を通して、学生が協働して主体的・能動的に学びを深めていきます。

(2) 課題発見・解決力をつけるために経験学習を取り入れます

サービ斯拉ーニング、インターンシップ、グローバルスタディといった経験学習の機会を設定します。現実での課題を発見したり、知識・技能を用いて課題解決策を提案したりすることにより、経験を次の学習に活かします。

(3) 学期中・学期末に評価のフィードバックを行います

学期中・学期末を通して評価を複数回行います。評価後のレポートや答案は可能な限りすべて学生に返却します。学習上の課題を明確にして、理解の向上に役立てます。

(4) ICT システムを利用した教育方法を取入れます

eラーニングシステムおよびeポートフォリオシステムを利用します。

eラーニングシステムは、予習・復習、小テスト、レポート提出、等に利用します。

eポートフォリオには、学修成果を蓄積し、自己の学修成果を自身で管理して、目標達成の裏付けとしたり、次の目標を設定したりするのに利用します。

(5) ラーニング・ルートマップを用いて学生自身が計画をたてて学修を進めます

4年間の学修の流れを学修フローチャートで示します。また、専攻ごとの科目体系はカリキュラムマップで示します。学生は学修フローチャートやカリキュラムマップを参照し、卒業後の進路を考慮しながら、4年間の計画を立て、ラーニング・ルートマップに表現します。随時、計画の遂行を確認し、必要があれば計画を修正しながら目標達成を目指します。

3 教育評価

それぞれの科目における評価、および、卒業認定・学位授与の方針に掲げる6つの目標に対する評価を次の考え方と方法で行います。

(1) 形成的評価を用いつつ、各学期の終わりに総括的評価を行います

各科目では、学修の成果を評価するためにテスト、レポート、プレゼンテーションなどを利用します。レポートやプレゼンテーションはルーブリック（評価表）を用いて評価します。評価は学期中にも行い、学生の理解状況を把握して補習を設定したり、学生へのフィードバックに利用したりします（形成的評価）。学期の終盤には総合的・全体的な評価を行います（総括的評価）。成績評価はこれらの評価を組み合わせ、多面的・総合的にを行います。

(2) KUISs 学修ベンチマークを定期的にチェックすることで到達度を確認します

半年に一度、卒業認定・学位授与の方針に掲げた力・資質について、その到達度を定められた評価指標（KUISs 学修ベンチマークルーブリック）で自己評価を行い、教員と面談のうえ、自分の成長の確認をしてもらいます。

(3) 2年次終了時に到達確認試験により専門基礎知識の修得を確認します

2年次終了時には、専門基礎知識の修得度を確認し、卒業研究の履修能力を確認するために「到達確認試験」を行います。不合格の者には再試験を課し、その合格を求めます。

(4) 卒業研究によって卒業時の専門知識の修得を確認します

4年間の学修成果は、人の心や行動など心理学に関わる課題を扱った卒業研究（必修）によって総合的に評価を行います。評価方法は複数教員が共通の評価指標（評価ルーブリック）を活用して行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学部学科名称変更により募集停止。在学生には履修要項に掲載）

3. 入学者選抜の方針【AP】

（求める学生像）

本学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた人物を求めます。

（高等学校での修得が望ましい水準）

[知識・技能]

(1) 高等学校の教育課程を幅広く修得している。

(2) 高等学校までの履修内容のうち、「国語総合（現代文）」と「英語」を通じて、聞く・話す・読む・書くことについての基礎力を身につけている。

基礎的英語力（英検3級程度）を身につけている。

基礎的数学力（数学Ⅰ・数学A程度）を身につけている。

[思考力・判断力・表現力]

(3) 身近な社会の問題について、知識や情報をもとにして、筋道を立てて考え、その結果を説明することができる。

[主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度]

(4) 安全・安心な社会を作りたいことを望み、そのために心理学を学び、その知見を活用したいという意欲がある。

(5) 学校でのグループ学習、課外活動やボランティア活動等の経験があり、グループワークなど他の人たちと協力しながら、課題をやり遂げることができる。

[入学前教育]

(6) 入学前教育として求められる、必要な基礎的知識を身につけるための e ラーニングプログラムに最後まで取り組むことができる。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_information.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4 人	－					4 人
心理学部	－	10 人	6 人	2 人	0 人	0 人	18 人
社会学部	－	6 人	6 人	1 人	0 人	0 人	13 人
経営学部	－	13 人	5 人	1 人	0 人	0 人	19 人
保健医療学部	－	10 人	8 人	8 人	4 人	0 人	30 人
教育学部	－	8 人	11 人	5 人	0 人	0 人	24 人
国際コミュニケーション学部	－	16 人	4 人	1 人	3 人	0 人	24 人
現代社会学部	－	2 人	1 人	1 人	0 人	0 人	4 人
別科	－	0 人	1 人	0 人	0 人	0 人	0 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		199 人					199 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：大学のHP上で公表（学部学科の教員紹介ページ）					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
毎年度、8月に2日、9月に1日、2月に2日、計5日間、全教員が一堂に会し、教育の質保証を目的にFDを実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	150 人	70 人	46%	600 人	437 人	72%	人	6 人
経営学部	175 人	157 人	89%	665 人	635 人	95%	20 人	6 人
国際コミュニケーション学部	155 人	82 人	52%	515 人	312 人	60%	人	8 人
心理学部	125 人	141 人	112%	375 人	387 人	103%	人	1 人
社会学部	100 人	59 人	59%	300 人	180 人	60%	人	2 人
保健医療学部	100 人	102 人	102%	400 人	402 人	100%	人	人
人間科学部	人	人	%	125 人	141 人	112%	人	人
現代社会学部	人	人	%	210 人	215 人	102%	人	人
合計	805 人	611 人	75%	3190 人	2709 人	84%	20 人	23 人
（備考）人間科学部、現代社会学部は募集停止								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数	その他

			(自営業を含む。)	
教育学部	174 人 (100%)	4 人 (2.3%)	153 人 (87.9%)	17 人 (9.8%)
経営学部	100 人 (100%)	5 人 (5.0%)	88 人 (88.0%)	7 人 (7.0%)
現代社会学部	203 人 (100%)	4 人 (2.0%)	152 人 (74.9%)	47 人 (23.2%)
国際コミュニケーション学部	34 人 (100%)	1 人 (2.9%)	28 人 (82.4%)	5 人 (14.7%)
人間科学部	131 人 (100%)	11 人 (8.4%)	108 人 (82.4%)	12 人 (9.2%)
保健医療学部	57 人 (100%)	0 人 (0.0%)	57 人 (100%)	0 人 (0.0%)
合計	699 人 (100%)	25 人 (3.6%)	586 人 (83.8%)	88 人 (12.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑥ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
授業計画書の作成過程 シラバスは、学生が科目の内容を理解しやすく、活用しやすいシラバスとすることを念頭に作成するように各教員へ依頼している。システム上において自動的に、当該授業の科目ナンバリングコードや開講学期等が自動的に記載される。教員に対しては、下記項目についての記載を求めている。 ● 先行して履修すべき科目、並行して履修すべき科目、今後履修すべき科目 ● 学生からの質問に答えるための連絡先（メールアドレスや研究室の番号など） ● 授業形態は、「講義科目」「演習科目」「実験科目」「実習科目」「実技科目」など ● 履修制限がある場合の選抜の方法等 ● 授業の目的と概要。記載については、当該授業の学問分野における位置づけや、学位プログラムの中で設定されている DP を踏まえ、主語を学生にして記載 ● 学習目標と DP との関連 下記のポイントについて記載 ① 学科の DP（ディプロマポリシー）との関連性について記載する。

- ② 学習目標は客観的に評価することが可能な内容とする。
- ③ 1つの文章に1つの目標を示す。(複文とならないように)
- ④ 評価の条件や基準を具体的に明示する。
- 使用する教科書や参考書、教材、授業で扱う内容に関連する文献、参考となる URL や論文名
- 成績評価 具体的に、学習目標が達成されたかどうかをどのように判断するのかの視点から、測定の方法、基準の配分を具体的に記載するように求めている。
- オフィスアワーの曜日時限についての記載。

授業計画書の作成・公表時期

シラバスの作成は、次年度の授業担当が確定する授業開講前年度の1月下旬から、次年度授業担当の専任教員及び非常勤講師に作成を依頼する。その後、各学部学科、高等教育研究開発センター等において、チェックを行い、必要であれば、2月中旬に行われる全学FD等において、シラバスの課題や問題点等について取り上げ、修正等の依頼を行っている。

公表は、3月末からの履修登録にあわせて、WEB上にて公開している。

⑦ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること (概要)

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質及びこれらの総合的な活用力の修得状況は、教育課程編成の方針(CP)の評価に掲げる方法により行い、具体的な評価方法は以下の通りである。

1. KUISs 学修ベンチマーク

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(1) 自律性、(2) 社会的貢献性、(3) 多様性理解、(4) 問題発見・解決力、(5) コミュニケーションスキルの評価に使用する。これら5つの到達目標を測るために、12項目の測定尺度を設定した KUISs 学修ベンチマークルーブリック(評価基準表)を作成している。学生は半年に一度、このルーブリックにもとづいて、どの能力項目がどのレベルにあるのか自己評価を行い、学生を担当するアドバイザーが学生の自己評価結果の確認を行う。

2. 卒業研究の成果

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6) 専門的知識・技能の活用力は、すべての学科で必修科目にしている卒業研究の成果によって評価します。評価ツールは、卒業論文のルーブリック評価を使用する。

3. 到達確認試験

卒業認定・学位授与の方針(DP)に掲げる能力・資質のうち、(6)に関連し、基礎的な専門的知識・技能の定着について、2年終了時に到達確認試験を実施して評価を行う。この試験の合格は、本学履修規程に定める成績と単位に関する要件とともに、4年の卒業研究を履修するための要件としている。

4. 総括テスト及びレポートなどによる各科目の成績評価

各科目では、シラバスに記載している方法で成績評価を行う。評価は、テストによるもののほか、レポートやプレゼンテーションのルーブリック評価などにより、科目の内容や方法に合わせて多元的に行っている。

具体的には、下記の記載をシラバスに求めている。

- ① 測定の方法(例:中間テスト・期末テスト・レポート・エッセイ・eポートフォリオ等)
- ② 基準の配分(例:テスト60%、レポート20%、毎回のコメント10%、eポートフォリオ)

10%)

なお、それぞれの測定が、どの時期に行われるのか（例：中間テスト（日時）、小レポート（毎回）を明記することで、学生は自分自身でスケジュール等を調整し、準備することができるため、必ず提示するように依頼

- ・成績評価は、授業途中の評価（中間試験等）だけでなく、総括試験、本試験など総括的な評価を必ず行うことと、総括試験、本試験の配点割合はあらかじめ示し、総括試験、本試験だけで合否が決まるような成績評価にならないように求めている。
- ・出席点は評価に含めてはいけない（授業への出席は前提）。
- ・情意的領域の観点を評価の対象とする場合は、それが学習目標に明記されていることと、十分妥当な評価基準を受講生に示しておくこと。

本学におけるGPAの算出方法は下記のとおりである。なお、GPAは学業成績優秀者の表彰や学内における各種奨学生の選考の際に資料としている。

◆ 成績評価と科目GP

各登録科目の成績評価を「4」、「3」、「2」、「1」、「0」に換算する。

成績評価 (100 点満点)	科目GP (グレード・ポイント)
90 点、100 点	4
80 点	3
70 点	2
60 点	1
60 点未満	0

◆ GPAの計算方法

科目GPに各授業科目単位数を乗じ、その総和を登録科目総単位数で割る計算でGPAの数値を算出

$$GPA(グレード・ポイント・アベレージ) = \frac{(A \text{ 科目 } GP \times A \text{ 科目 単位数}) + (B \text{ 科目 } GP \times B \text{ 科目 単位数}) + (C \text{ 科目 } GP \times C \text{ 科目 単位数}) + \dots}{\text{登録科目総単位数}}$$

◆ GPAと学修指導

GPAによる学修指導は以下の通りです。

- ① 前学期（夏、冬学期は含まない）GPAによって、履修登録の上限単位数が増減する。
- ② 年間GPA（春学期または秋学期を起点とし、夏学期または冬学期を含む4学期）が1.00未満の者には、学部長が嚴重注意を行う。
- ③ 連続する2学期（夏学期または冬学期を除く）において、各学期のGPAが共に1.00未満の者には、学部長が保護者同席の上で、嚴重注意を行う。
- ④ 入学以来の累積GPAが1.50以上で、かつ既修得単位数が80単位以上の者のうち、休学期間及び特別履修期間を除く在学期間が3年以上に達している場合で、原則として2年次末に実施される到達確認試験に合格済みの学生は、履修登録の際に、「卒業研究」を登録することができる。ただし、累積GPAが1.50未満の場合でも、到達確認試験に合格済みであり、「卒業研究」を登録しようとする直前1年間の年間GPAが1.60以上で、年間34単位以上を修得し、学修態度に改善があった者には、「卒業研究」の登録を認めることがある。
- ⑤ 1年次秋学期以降で、連続する春・夏・秋・冬・春・夏学期または秋・冬・春・夏・秋・冬学期において当該期間の累積GPAが1.00未満の者には、学部長が退学を勧告する。但し、本人およびアドバイザーの意見を聞いた上で、成業の可能性があると判断されれば、この限りではない。また、学修の継続を希望する者は、特別履修期間として在学することができる。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
-----	-----	-----------------	----------------------	-----------------------

国際コミュニケーション学部	グローバルコミュニケーション学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
国際コミュニケーション学部	観光学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
教育学部	教育福祉学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
経営学部	経営学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
心理学部	心理学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
社会学部	社会学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
保健医療学部	看護学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
人間科学部	人間心理学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
現代社会学部	総合社会学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
現代社会学部	観光学科	126 単位	有	直前の学期の GPA により変動 半期 20～25 単位
GPA の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：公表方法：大学ホームページにて公開
<https://www.kuins.ac.jp/student/campusmap.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料	入学金	その他	備考（任意記載事項）
		（年間）			
経営学部	経営	857,000 円	300,000 円	302,000 円	
心理学部	心理	857,000 円	300,000 円	302,000 円	
教育学部	教育福祉	857,000 円	300,000 円	302,000 円	
国際コミュニケーション学部	グローバルコミュニケーション	857,000 円	300,000 円	302,000 円	
	観光	857,000 円	300,000 円	302,000 円	
社会学部	社会	857,000 円	300,000 円	302,000 円	
現代社会学部	総合社会	857,000 円	300,000 円	302,000 円	
	観光	857,000 円	300,000 円	302,000 円	
保健医療学部	看護	1,278,000 円	300,000 円	302,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生一人ひとりの学修意欲や学修効果を高めるためのサポート体制が充実している。入学前のウォーミングアップ学習を足がかりにして、入学後はアドバイザー制度による細やかなフォロー、研究室オフィスアワー、センターオフィスアワー、さらにはセンタープログラムの実施や、学生メンター制度、学修支援チューター制度を整備し、教員や上級生が日々の学生生活や学修への支援、資格試験対策等を実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 学生と真剣に向き合う“徹底した個別サポート”を進路選択に係る支援の土台としている。就職活動に関する学生一人ひとりの個人カルテを作成し、職員との対面相談だけでなくアドバイザー教員も交えて、メール・電話などを通じて学生一人ひとりに積極的に働きかけ、学生の希望や個性を最大限に尊重した支援を実現。また、特に就職準備が本格化する3年次については、就職サポートガイダンスなども数多く設定し、集中的な準備を実施することで、採用活動の解禁直後から有利な就職活動を展開している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) ＊保健室 不慮のケガの手当てや、具合の悪い時の静養だけでなく、気軽に立ち寄り日常生活のさまざまな相談を聞くことができるようスタッフの体制を整えている。 ＊学生相談室 充実したキャンパスライフのための「なんでも相談室」として専門スタッフ（臨床心理士）を常駐、精神面の不調に関するカウンセリングに限らず、それ以外の日常生活で困ったことも何でも相談にのる組織として学生対応を行っている。 ＊心身の健康の維持に関わる予防的活動 保健室では栄養相談や各種講演会、学生相談室は毎月1回、昼休みにオープンของกลุ่ม活動を実施しています。その他、保健室、学生相談室ともに定期的な便りを発行し、心身の健康に関する情報を発信している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページで公開 https://www.kuins.ac.jp/about/disclosure/kuis_information.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F128310108954
学校名	関西国際大学
設置者名	学校法人濱名山手学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		410人	390人	800人
内 訳	第Ⅰ区分	257人	255人	
	第Ⅱ区分	89人	70人	
	第Ⅲ区分	64人	65人	
家計急変による支援対象者（年間）				－人
合計（年間）				801人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽り或其他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 （単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下）	-人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	-人		
「警告」の区分に連続して該当	-人		
計	-人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間		前半期		後半期	

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-人
3月以上の停学	-人
年間計	-人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	-人		
G P A等が下位4分の1	41人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	28人		
計	71人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。